NEWS RELEASE

株式会社 すららネット
2016年8月3日

～「小中高生のスポーツに関する意識調査 2016」～
スポーツ観戦が好きな小中高生は 8 割以上
小中高生の好きなスポーツ選手トップ 3 は、
「錦織圭」選手、「羽生結弦」選手、「香川真司」選手

クラウド型学習システム「すらら」を展開する株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）では、「小中高生のスポーツに関する意識調査 2016」を小学生から高校生までの男女に実施しました。

【トピックス】

1）小中高生におけるスポーツ好き、約 9 割！
2）小中高生でスポーツを“する”のが好き、約 8 割！
3）小中高生がやっているスポーツトップ 3「水泳」「バスケ」「テニス」、
　錦織圭選手の影響か「テニス」が躍進
4）スポーツ選手になりたい小中高生、4 割
5）小中高生のスポーツ観戦好きは 8 割以上
6）スポーツの国際大会への関心、小中高生は「関心がある」7 割
　最も注目しているスポーツ TOP3「サッカー」・「テニス」・「野球・ソフトボール」
7）小中高生の好きなスポーツ選手トップ 3、
　錦織圭選手、羽生結弦選手、香川真司選手

＜調査概要＞

【2016 年】
1） 調査名　　：小中高生のスポーツに関する意識調査 2016
2） 調査方法　：クラウド型学習システム「すらら」のログイン画面にて回答を得た
3） 調査対象　：小学 2 年生から高校 3 年生までの男女
4） 調査期間　：2016 年 7 月 7 日～7 月 22 日
5） 有効回答数：685 名＜男子：60.9%・女子：39.1%、小学生：13.9%・中学生：73.1%・高校生：13.0%＞

【2013 年】
1） 調査名　　：小中高生のスポーツに関する意識調査 2013
2） 調査方法　：クラウド型学習システム「すらら」のログイン画面にて回答を得た
3） 調査対象　：小学 1 年生から高校 3 年生までの男女
4） 調査期間　：2013 年 8 月 1 日～2013 年 8 月 25 日
5） 有効回答数：414 名＜男性：54.3%・女性：45.7%、小学生：14.0%・中学生：78.0%・高校生：8.0%＞

注：パーセンテージの計算は少数第 2 位を四捨五入し、少数第 1 位まで記載しているため、合計が 100%にならない場合があります

※本リリースの調査結果をご利用頂く際は、「すららネット調べ」とご明記下さい。

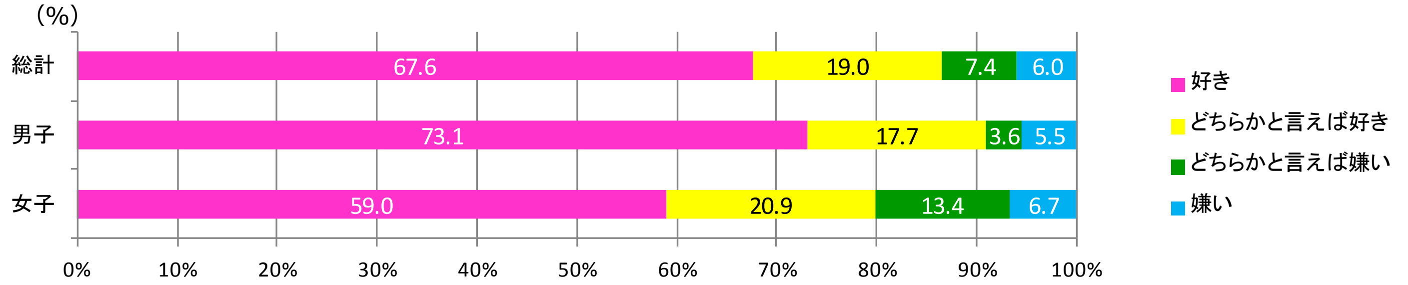
NEWS RELEASE

1)小中高生におけるスポーツ好き、約 9 割！

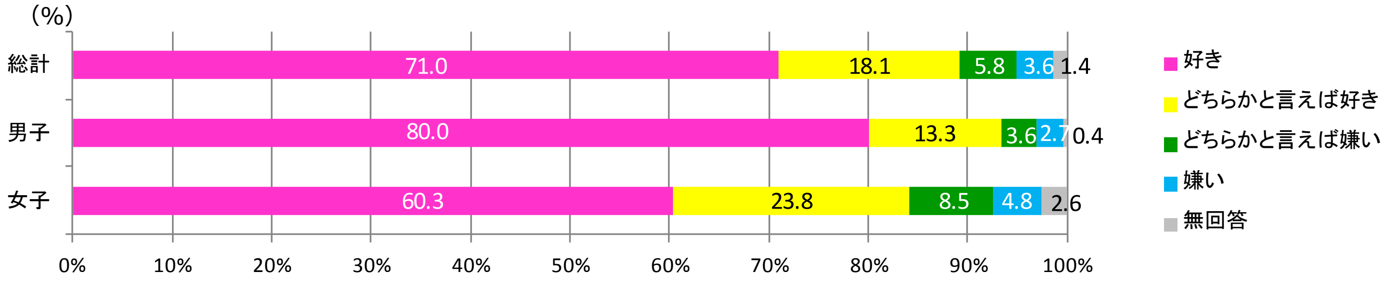
小中高生を対象にスポーツが好きか聞いたところ、「好き(「好き」67.6%・「どちらかと言えば好き」19.0%の合計)」が約 9 割(86.6%)で、男女別では、男子が 90.8%、女子が 79.9%という結果となりました。このことから、多くの小中高生はスポーツ好きと言えそうです。しかし、2013 年に実施した同調査では、「好き(「好き」71.0%・「どちらかと言えば好き」18.1%の合計)」が 89.1%で、今回は 2.5pt 減少しています。3 年前と比較すると、スポーツ熱が若干冷めてしまった感じがうかがえます。

■結果:「スポーツは好きですか？」の回答 (単一回答)

【2016 年】



【2013 年】

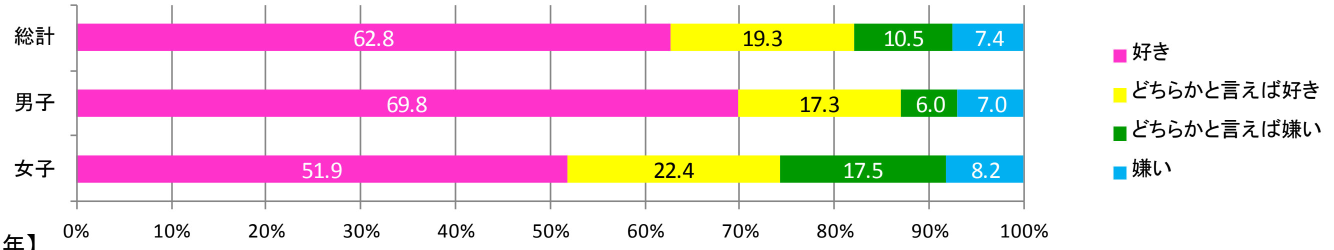


2)小中高生でスポーツを“する”のが好き、約 8 割！

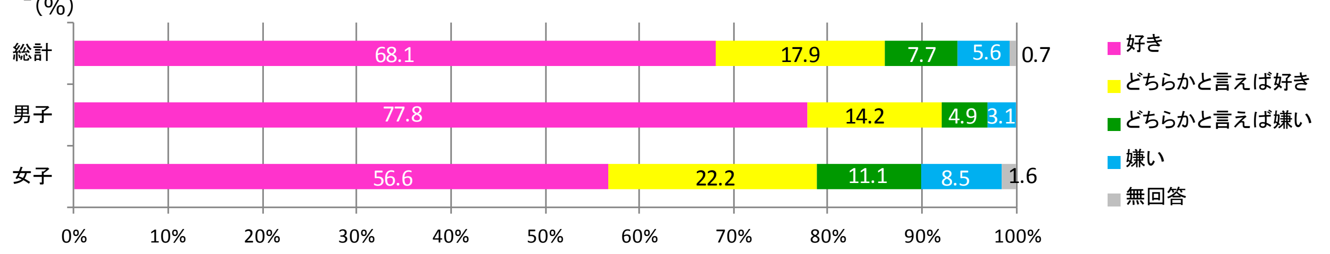
小中高生を対象にスポーツをするのは好きか聞いたところ、「好き(「好き」62.8%・「どちらかと言えば好き」19.3%の合計)」が約 8 割(82.1%)で、男女別では、男子が 87.1%、女子が 74.3%という結果となりました。1)の質問と比較すると、スポーツ好きでも実際に自分がスポーツをするのが好きという子どもの割合は減ってしまっています。また、2013 年に実施した同調査との比較では、「好き(「好き」68.1%・「どちらかと言えば好き」17.9%の合計)」が 86.0%で、今回は 3.9pt 減少しています。昨年スポーツ庁が公表した平成 26 年度体力・運動能力調査結果によると、平成 26 年までの 17 年間の年次推移では緩やかな向上傾向を示しているということですが、今回の結果によると直近 3 年という短期間で見ると、スポーツをするのが「好き」の割合は減少してしまっています。

■結果:「スポーツを<u>する</u>のは好きですか？」の回答 (単一回答)

【2016 年】(%)



【2013 年】(%)

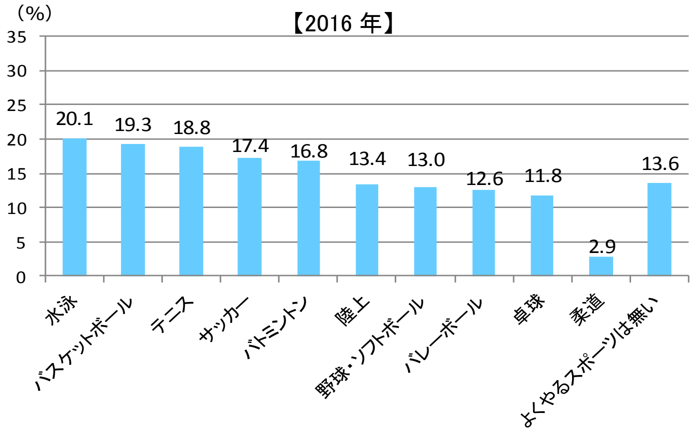


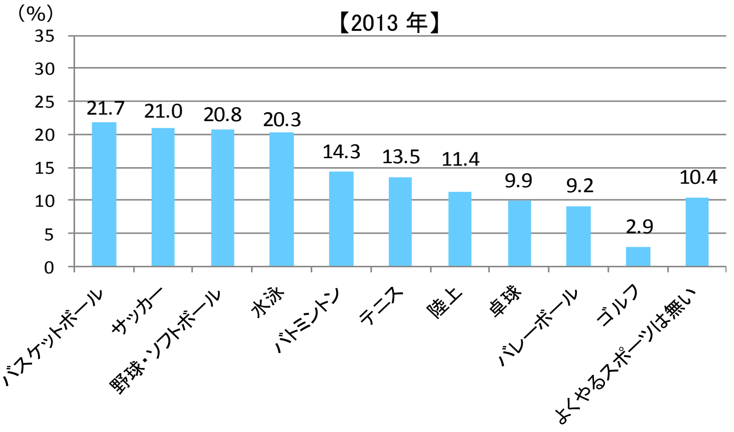
3）小中高生がやっているスポーツトップ 3「水泳」「バスケ」「テニス」、錦織圭選手の影響か「テニス」が躍進

小中高生がやっているスポーツは 1 位「水泳」（20.1%）、2 位「バスケ」（19.3%）、3 位「テニス」（18.8%）という結果となりました。3 位のテニスは 2013 年の同調査では 13.5%で 6 位でしたが、順位を 3 つ上げ、割合も 5.3pt 伸びています。特に男子では 2013 年は 14.2%で 5 位でしたが、2016 年には 21.1%で 2 位と、6.9pt の伸びを示しています。これはプロテニスプレイヤーの錦織圭選手の活躍が影響しているのではないかと考えられます。

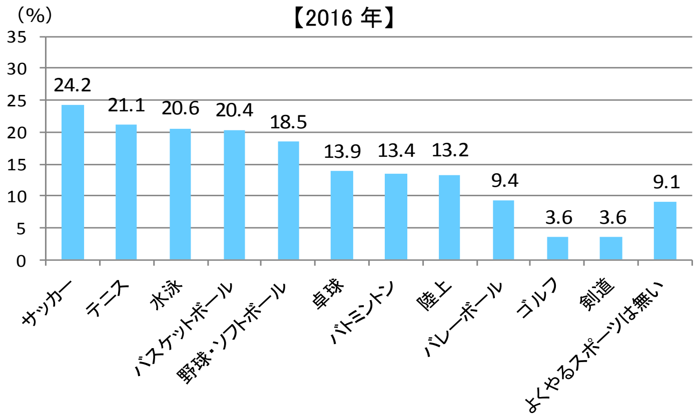
■結果：「よくやっているスポーツは何ですか？該当するものを全て選んでください。」の回答トップ 10（複数回答）

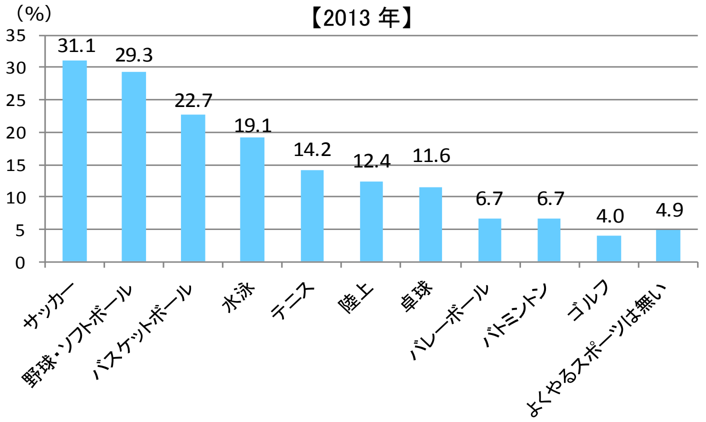
【全体】



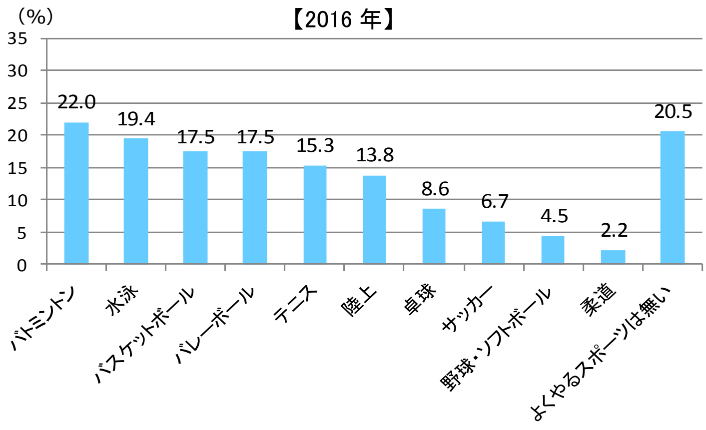


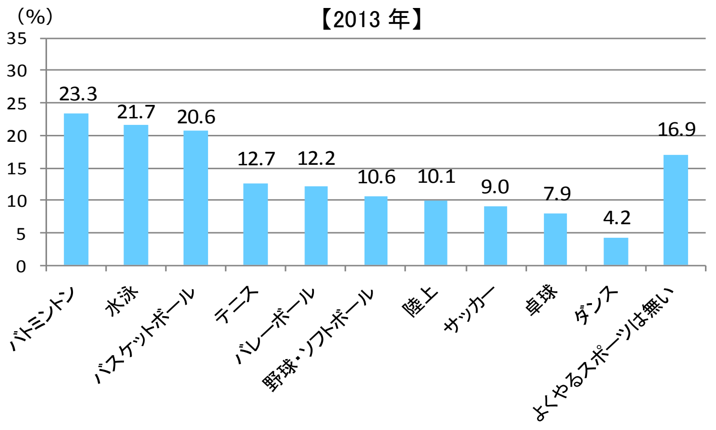
【男子】





【女子】





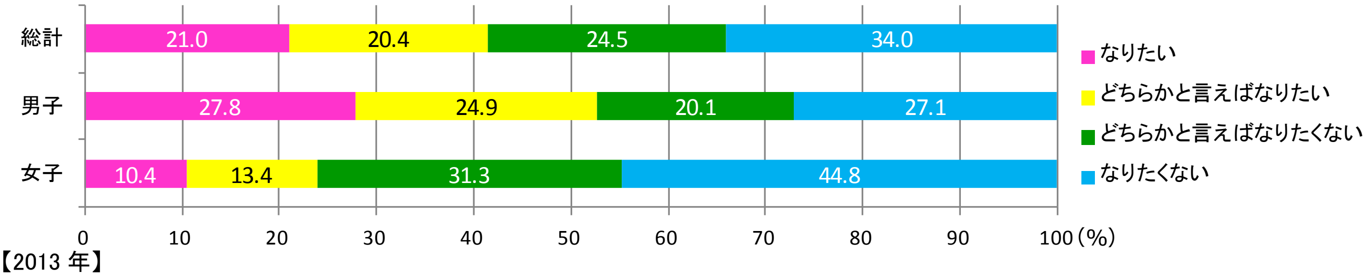
4）スポーツ選手になりたい小中高生、4 割

スポーツ選手になりたいかとの問いでは、「なりたい」（「なりたい」21.0%、「どちらかと言えばなりたい」20.4%の総計）が 4 割（41.4%）で、スポーツ選手になりたい、という夢を抱いている小中高生は半数以下でした。男女別で見てみると、男子 52.7%、女子 23.8%と倍以上の差が開く結果となっています。

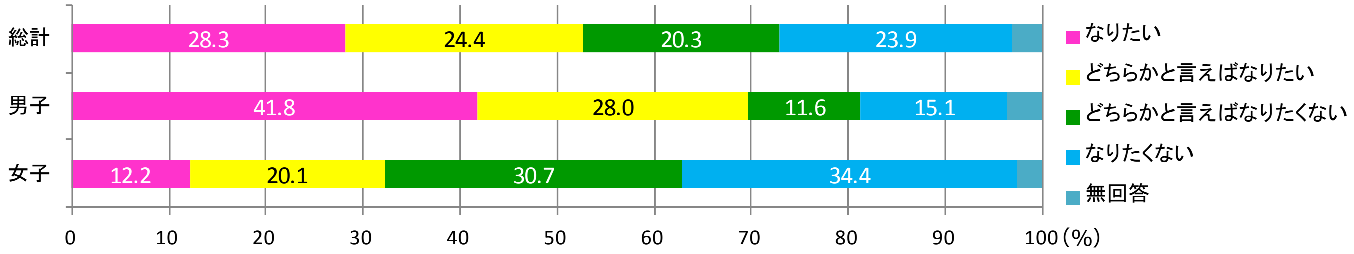
また、2013 年の同調査と比較すると、「なりたい（「なりたい」、「どちらかと言えばなりたい」の総計）において 11.3pt 減少しており、男子に至っては 17.1pt 減少しています。2 で記載したとおり、スポーツをするのが好きな割合は 2013 年と比較すると減少していますが、その減少割合よりも大きく減少しています。子どもの将来の夢に関する調査で、ユーチューバーがランクインしたことが話題になりましたが、選択肢が多様化しており、スポーツ選手を目指す子どもの割合が減少しているのではないかと考えられます。

■結果：「スポーツ選手になりたいですか？」の回答　（単一回答）

【2016 年】



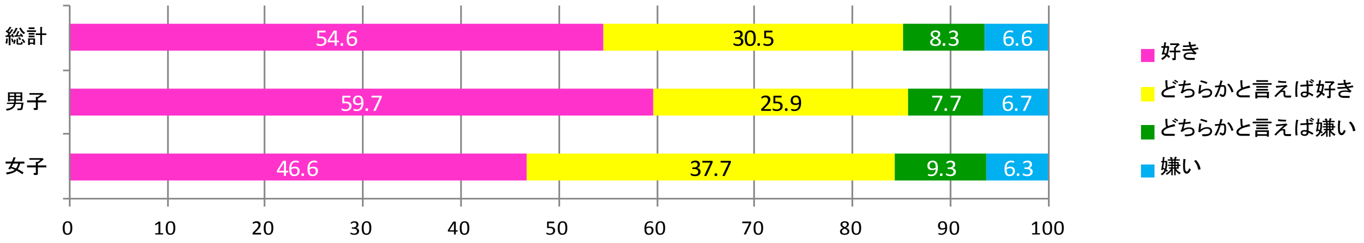
【2013 年】



5）小中高生のスポーツ観戦好きは 8 割以上

スポーツ観戦は好きか、との問いでは、「好き（「好き」54.6%・「どちらかと言えば好き」30.5%の合計）」が 8 割以上という結果となりました。男女別において、「好き」は男子のほうが 13.1pt 高いですが、「どちらかと言えば好き」も合わせると、男子 85.6%、女子 84.3%と男女差はそれほど見られず、スポーツ観戦を好む傾向にあるようです。

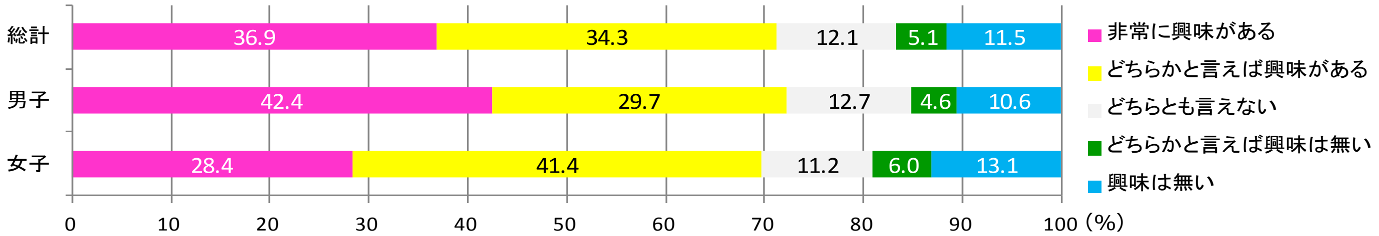
■結果：「スポーツ観戦は好きですか？」の回答 （単一回答）



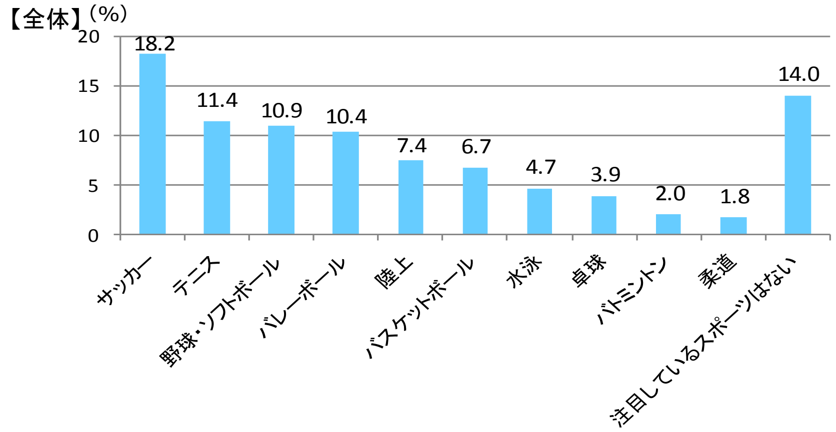
6)スポーツの国際大会への関心、小中高生は「関心がある」7 割 最も注目しているスポーツ TOP3「サッカー」・「テニス」・「野球・ソフトボール」

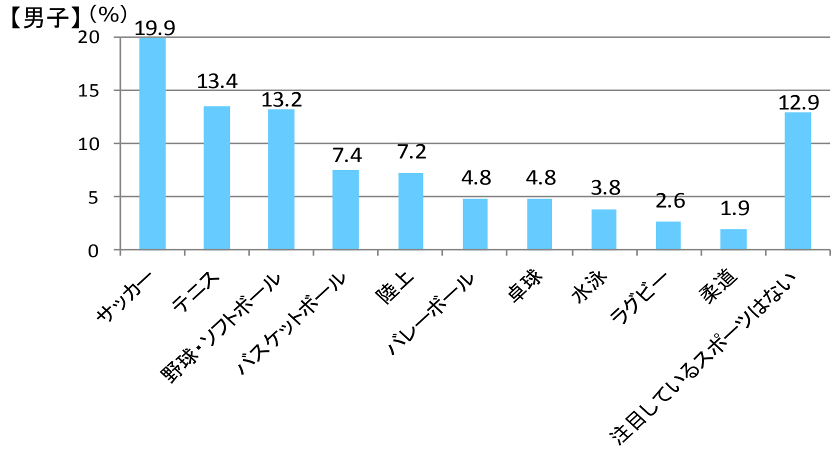
小中高生の世界選手権や国際大会などのスポーツのイベントへの関心は、「関心がある（「非常に関心がある」36.9%、「どちらかと言えば関心がある」34.3%の計）」が 71.2%という結果となり、小中高生の関心の高さがうかがえます。加えて、注目している競技について聞いたところ、1 位「サッカー」（18.2%）、2 位「テニス」（11.4%）、3 位「野球・ソフトボール」（10.9%）という結果になりました。自分がやっているスポーツに関心を持っているのはもちろん、活躍する日本人選手がいる競技や日本チームが優勝した競技への関心が高い様子が見受けられます。「野球」は実際に子どもたちがするスポーツとしては 7 位でしたが、注目している競技では 3 位に食い込みました。

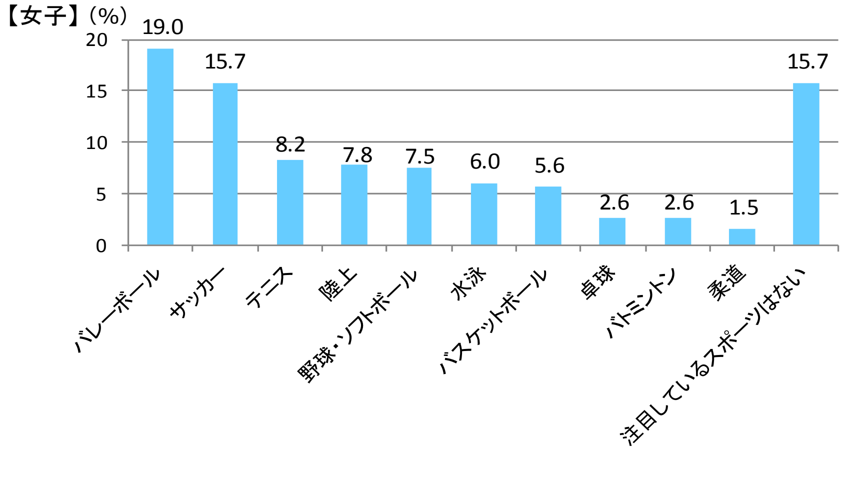
■結果：「世界選手権や国際大会など、スポーツのイベントに興味はありますか？」の回答　（単一回答）



■結果：「世界選手権や国際大会などのスポーツのイベントにおいて、どの競技に最も注目していますか？」の回答トップ 10 （単一回答）



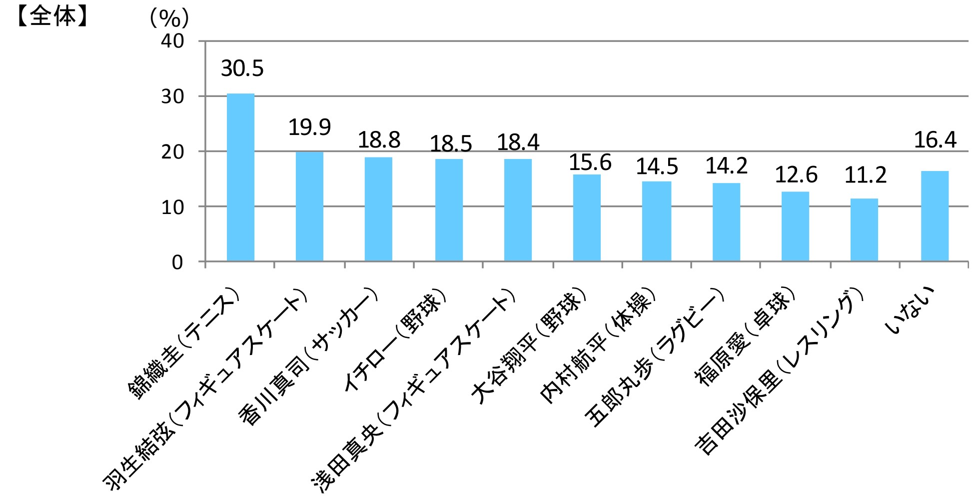


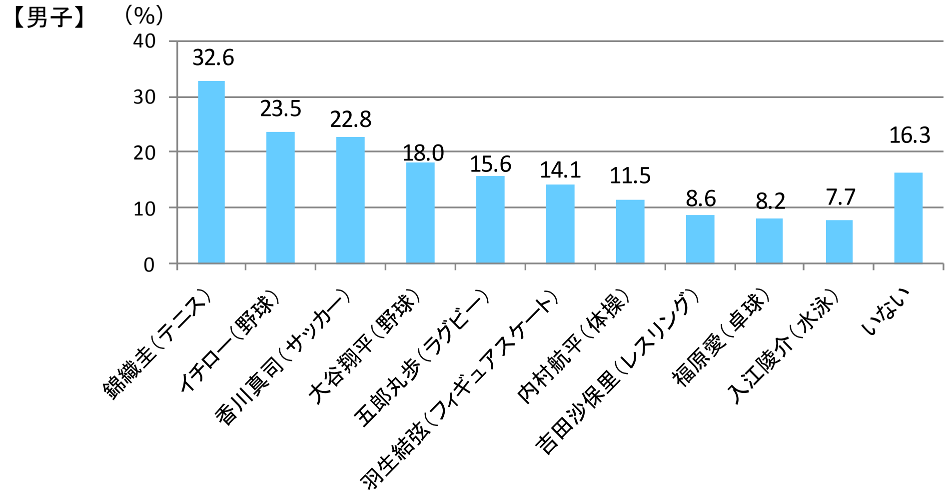


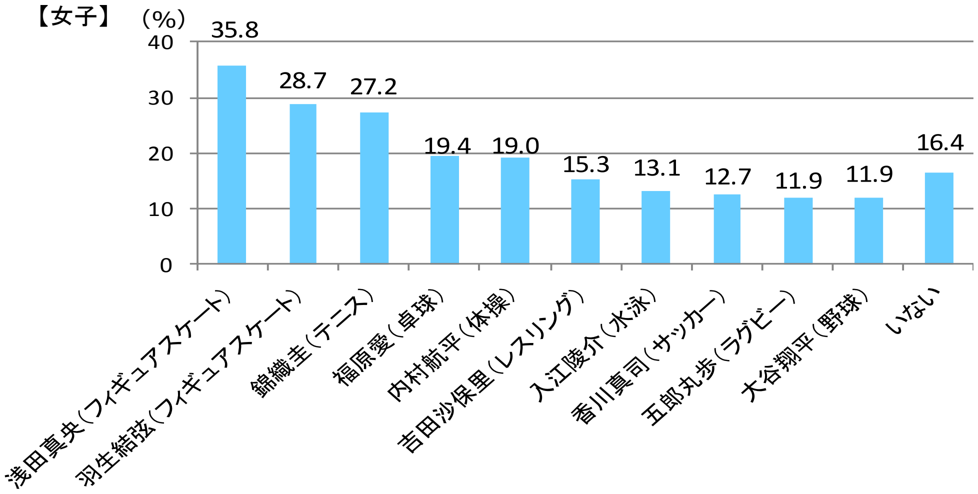
7）小中高生の好きなスポーツ選手トップ 3、錦織圭選手、羽生結弦選手、香川真司選手

小中高生の好きなスポーツ選手では、錦織圭選手、羽生結弦選手、香川真司選手がトップ 3 となりました。錦織選手は世界ランキングトップ 10 入りしており、羽生選手は国際大会で何度も表彰台に上がっており、香川選手はヨーロッパで活躍するなど、世界的に活躍している選手が上位にランクインする結果となりました。

■結果：「好きなスポーツ選手は誰ですか？」の回答トップ 10　（複数回答）







■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】小学校高学年～高校 3 年生までの学習指導要領に準拠
【対応教科】英語・数学（算数）・国語
【利用者数】約 34,000 名（2016 年 6 月末現在）
【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1 つの単元は 10 から 15 分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。
しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

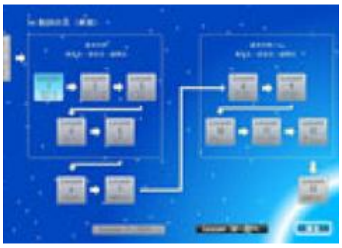
○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月 1 回の目標設定」や、つまずいているところがないか「週 1 回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

＜参考＞これまでの e ラーニング教材の大半は以下の 3 パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
　「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、 比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
　「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
　非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AI が生徒の学習データに基づき先生の替わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■　株式会社すらら ネット　会社概要

○　設立：2008 年 8 月　○資本金：13,795 万円　○所在地：東京都千代田区内神田
○　事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
○　会社 URL： http://surala.jp/
○　受賞歴：・第 9 回日本 e-Learning 大賞　文部科学大臣賞(2012 年)
・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014 年)
・第 2 回 「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016 年）
・第 8 回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016 年)